

6月議会の一般質問

自「災害時活動マニュアル」を作り、避難体制などを細かに取り決めているとの答弁がありました。



佐々木とも子
TEL(793)4137

佐々木とも子市議は、介護保険サービスの更なる充実を求め質問。いきいき健康部長は、「高齢者支援センターと連携して、認知症の早期発見・早期対応ができるよう『認知症ケアパス』の作成をすすみたい。小規模多機能施設は、今年と来年で2か所ずつを予定している」と答えました。市民病院の災害時対応では、老朽化した非常電源設備は今秋までに更新計画を策定し、病院独自の「災害時活動マニュアル」を作り、避難体制などを細かに取り決めているとの答弁がありました。

住み慣れた地域で安心して暮らせる介護保険サービスの充実を

佐藤よう子市議は、「憲法と平和を守る町田市」を求めて質問。今年3月からの米軍戦闘機の騒音発生回数も過去最多となっていることから、騒音被害の根拠となるデータを把握するために相原や鶴川地域に騒音測定器の増設を求めましたが、担当部長は、「現時点では増設の計画はない」と答弁。また、市役所前の横断歩道に、音響式信号機設置を求めましたが、警察も現地確認し、上申中であるとの答弁がありました。堺中の校庭改善については、学校とも協議しながら整備方法について今年度中に検討すると担当部長が答弁しました。



佐藤よう子
TEL(797)5948

米軍機騒音被害のない平和な町田市に

池川友一市議は、認可保育所の増設で待機見ゼロを実現を求めて質問。3月議会で「計画以上にサービス量を増やせばいい」と答弁があった具体策について質問したところ「整備計画については現状を分析しながら柔軟に対応していく」と当初の計画を上回り、年度内に3つの保育園を建設することが明らかになりました。また、生活保護基準の引き下げで影響が出る可能性がある小中学生の就学援助について、影響が出ないよう対応を求めました。



池川友一
TEL(734)1116

池川友一市議は、認可保育所の増設で待機見ゼロを実現を求めて質問。3月議会で「計画以上にサービス量を増やせばいい」と答弁があった具体策について質問したところ「整備計画については現状を分析しながら柔軟に対応していく」と当初の計画を上回り、年度内に3つの保育園を建設することが明らかになりました。また、生活保護基準の引き下げで影響が出る可能性がある小中学生の就学援助について、影響が出ないよう対応を求めました。

認可保育所の増設で待機見ゼロに

細野りゆう子市議は、障がい児・者のトータルな生活や発達を支援するセンターの設置を求めました。東京都が発達支援センターを整備しているため、そこを紹介すると部長が答弁。市が独自に年齢などによって切れ目のない支援を行えるよう求めました。また、子どもたちが貧困によって学習の機会や豊かな成長が損なわれないように、生活支援や給付制の奨学金を設けるよう求めました。町田市が子どもの貧困の実態を把握できないことが明らかになりました。



細野りゆう子
TEL(796)8163

子どもが格差なく健やかに育つ町田市を



とのむら健一市議は、都立町田高校の北側にある本町田ひこじ谷戸緑地（くじら山）の自然を守るよう求める質問を行いました。良好な市街地の環境を保ち、市民に親しまれてきたくじら山（2ヘクタール）がそっくり宅地開発されようとしています。この場所には、ミスギ、コナラ、クヌギなど多くの樹木や豊富な湧き水と希少な水生植物などが生息していて、タヌキのつがいにも遭遇しました。計画では、すべての樹木が伐採され、水辺と谷戸は埋立てられてしまいます。とのむら市議は、くじら山の貴重な自然を、町田市が保全するよう求めました。今議会には、市民から「くじら山の環境保全を求める請願」が出され、建設常任委員会で審議され、継続審査となりました。



とのむら健一
TEL(793)5458

くじら山の自然を守れ

日本共産党市議団は、市内の福祉・教育施設などを訪問し、住民要求実現に向けた議会活動に生かしています

小・中学校

小中一貫校ゆくのき学園(大戸小と武蔵岡中の合同校舎型一貫校)は、2012年度に新しくスタートした町田唯一の小中一貫校。学力競争型一貫校とは一線画しています。中学校の先生が小学校で授業をしたり、5・6年生から中学校の部活に入れるのも魅力です。少規模校ならではの地域連携や共同も広がっていました。



体育祭の練習をする堺中学校の生徒たち

堺中学校では、冬場の校庭の凍結を何とかしてほしいとの要望が出され、6月市議会の一般質問で取り上げ、2015年度には工事を着工したいとの答弁がありました。

現場の声を市政に生かす知恵は現場にあり

高齢者福祉

高齢者が困った時に相談できる窓口、忠生第2高齢者支援センターを訪問。町田市は15あった支援センターを12に減らしていますが、増加する対象エリアの高齢者人口に対応する職員体制への支援が要望としていただきました。また通所・泊まり・訪問サービスを備えた24時間365日対応可能な小規模多機能ホームを視察。グループホームも併設され利用者にとっては使い勝手のいい施設です。どちらも、高齢化社会の在宅介護を支える拠点として、更なる充実が求められます。



小規模多機能ホームを視察

市民病院

市民病院の地域周産期母子医療センターのNICU(新生児集中治療室)や緩和ケア病棟を視察。地域医療連携室では、開業医からの紹介・逆紹介の状況説明を受けました。またエネルギー棟の非常用電源設備を見学し、災害時の後方医療施設となる市民病院には、災害時における診療機能の充実を求めました。



常時60%を自家発電している非常電源設備

障がい者施設

障がい者の通所施設

「なないろ」を視察。利用者は、農業作業班、配食サービス班、とうふ・下請け班、縫製部に分かれいきいき作業をしていました。働き甲斐のある工賃確保や、障害者総合支援法の問題点など、現場に足を運んで初めて見えることがたくさんあります。



仕事に精をだす施設利用者さん

“未婚の母”でも寡婦控除の適用求める意見書が可決

日本共産党が提出した「婚姻歴のない母子家庭の母についても税法上の『寡婦』とみなし控除を適用することを求める意見書」が、まちだ新世紀(3人)以外の賛成多数で可決されました。これは、税法上の「寡婦」が、過去に法律婚をしたことのあるものに限定されるため、婚姻歴の有無に関わらず、寡婦控除を適用するよう制度改正を求めるものです。

子育てセンター

原町田地域子育てセンターを併設する町田保育園を視察。地域子育てセンターは、母親たちが子どもを遊ばせながら待ち合わせしたり、子育ての相談をする場所として活用されています。来年度から地域子育て相談センターに発展し、関係施設と定期的に情報交換をして連携を図ったり、子育てに不安を持つ家庭に訪問して相談に乗ったりする子育て支援の拠点となります。専門性や支援機能のさらなる充実が求められます。



原町田地域子育てセンターが入る市立町田保育園